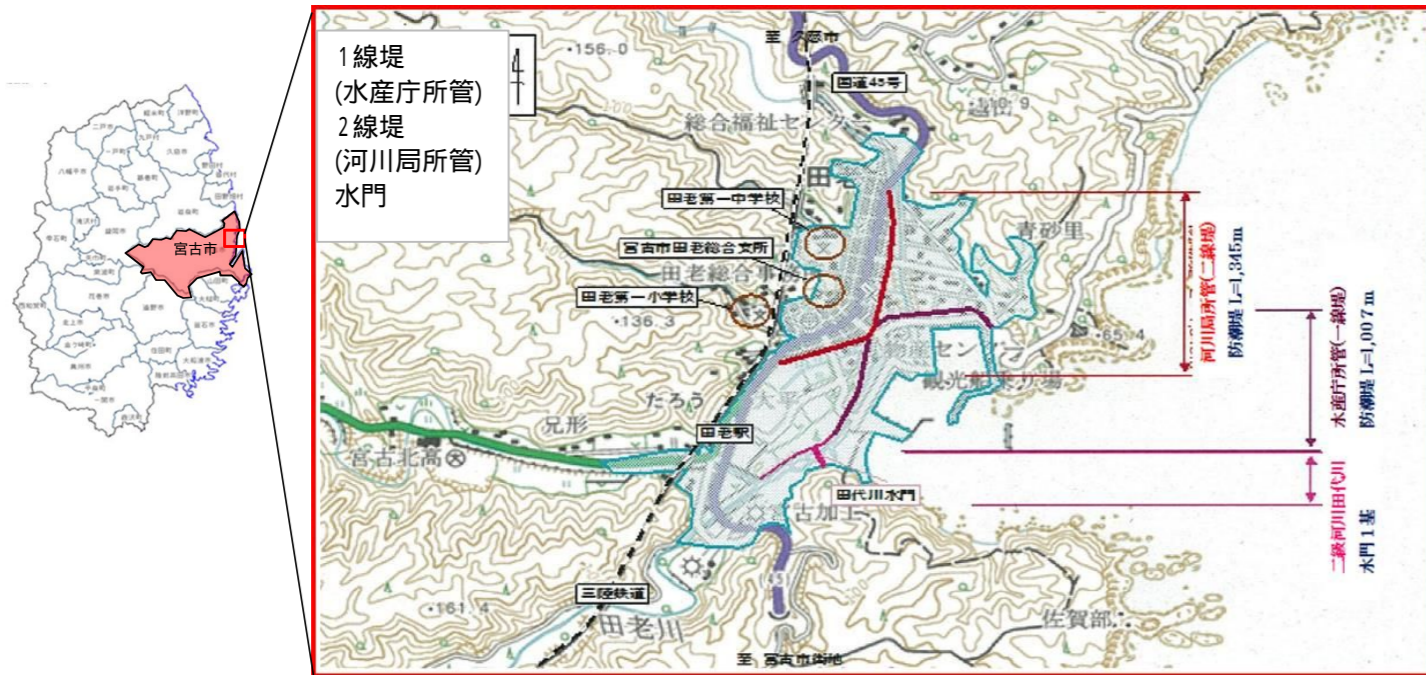


< 田老地区海岸災害復旧工事 事業概要 >

田老地区海岸の概要

- ・田老地区海岸(旧田老町)は、昭和8年の三陸津波で町全体が流出するという被害を被っている。それに伴い昭和9年より堤防建設に着手し、昭和15年までに960m、更に昭和27年の十勝沖地震津波を契機とし、昭和29年より昭和33年までにL=1345.0mを完成した。(T.P.+10.0m)
- ・東日本大地震により地盤沈下約80cmの被災、津波による水門・陸開施設等の損壊を受けた。津波は本堤防を越え、背後地は堤防高まで湛水し、津波痕跡高はT.P.+16.3mに及び甚大な被害を受けた。
- ・「岩手県津波技術専門委員会」での審議を経て、田老海岸では新計画堤防高をT.P.+14.7mと設定し、第一線堤(水産庁所管堤防)を高上げし、第二線堤(本海岸堤防)は原形復旧(パラペットによる高さ確保)を平成25年3月より実施し、平成28年度内に二線堤は復旧予定である。

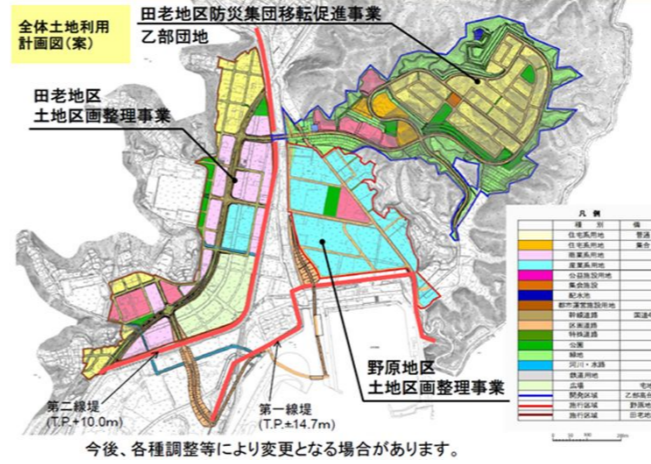


復興まちづくり計画

- ・宮古市東日本大震災地区復興まちづくり計画 (田老地区)
 - 田老地区の復興まちづくり計画の一環として第一線堤、第二線堤の整備
 - 田老地区土地区画整理事業(宮古市)
 - 防災集団移転促進事業(宮古市)
 - 災害区域に指定された範囲については高台移転を促進する。

- その他の事業
 - ・浸水対策事業
 - ・災害公営住宅整備事業
 - ・津波避難路等整備事業

野原地区の復興まちづくり計画の検討状況について



田老地区土地区画整理事業完成予想図



この図は完成予想図です。実際とは異なる場合があります。

被災状況

- ・H23.3.11 東日本大震災に伴う大津波は、1線堤及び2線堤(T.P.+10.0m)を越え、田老地区の堤内地側の住宅地が甚大な被害を受けた。
- ・2線堤の施設は、破堤など壊滅的な被災は免れたが、施設全体が広域地盤沈下によって約80~100cm沈下するなどの被害を受けた。津波高さは痕跡で最大T.P.+16.3m(岩手県調査)であったことが確認されている。



被災前状況 H22.3.10撮影



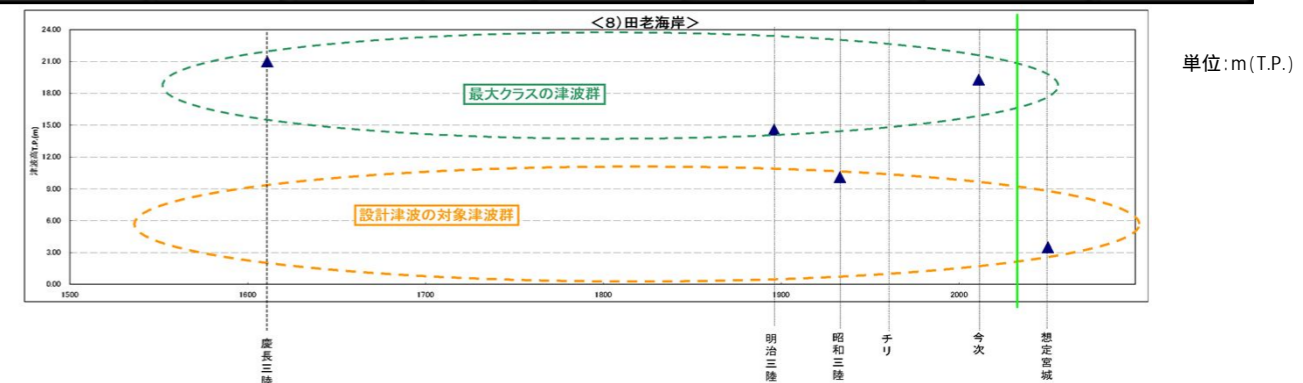
被災後状況 H23.3.28撮影

防潮堤高上げ計画

H23.7.8付海岸関係省庁通知に基づき、以下の手順で計画堤防高を設定した。
 過去に発生した津波の中から設計対象波を選定。
 せり上がりを考慮した津波の水位を算出し、設計津波の水位を算定。
 余裕高1.0mを加えた高さを新計画堤防高さとして設定。
 「岩手県津波技術専門委員会」での審議を経て、田老海岸では新計画堤防高をT.P.+14.7mと設定し、第一線堤(水産庁所管堤防)を新規に高上げ復旧し、第二線堤T.P.+10.0mは原形復旧(沈下戻し)する方針とした。

計画高の設定

【計画堤防高の設定】						
地域海岸名	今次津波痕跡高	設計津波		【設計津波の水位による堤防高設定】>【被災前計画高】のチェック	地域海岸内堤防高	被災前計画堤防高
		対象津波	設計津波の水位			
田老海岸	16.3	昭和三陸地震	13.7	14.7	14.7	10.0~13.7



< 田老地区海岸災害復旧工事 事業概要 >

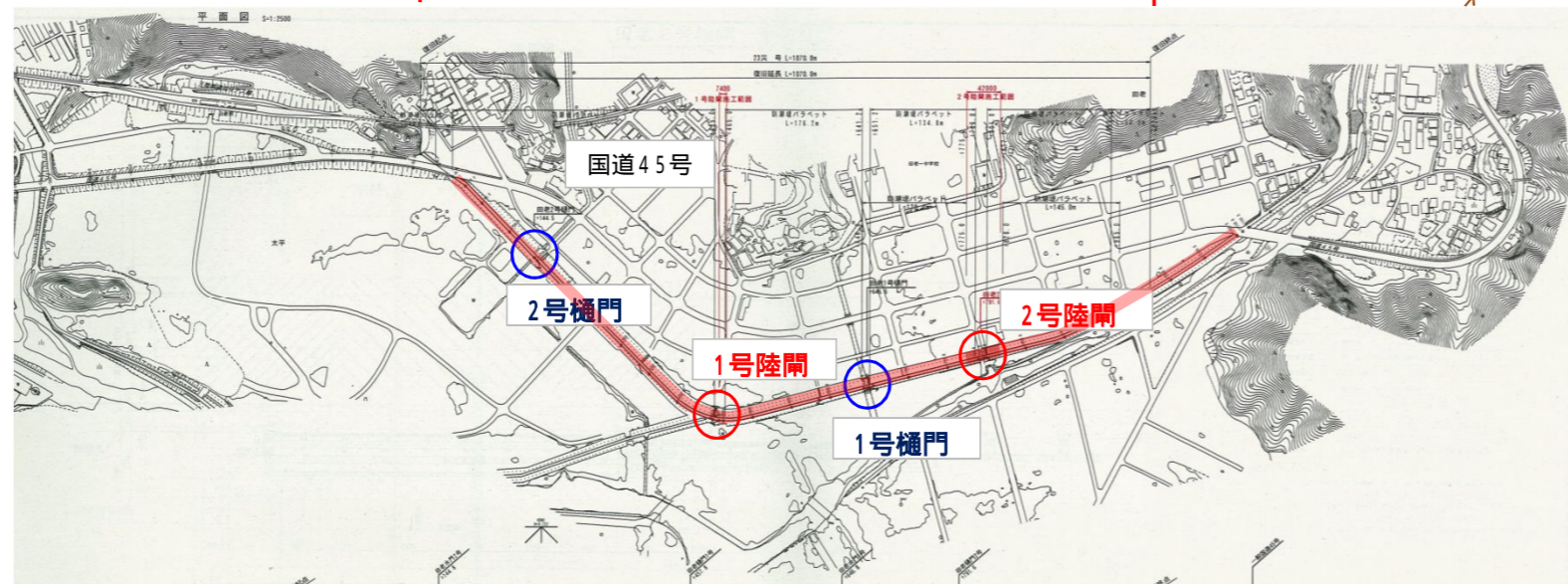
復旧概要 (水管理・国土保全局所管) 二線堤

復旧延長 L= 1070.0m

(防潮堤 L1070.0m、陸閘2基 樋門 2基)



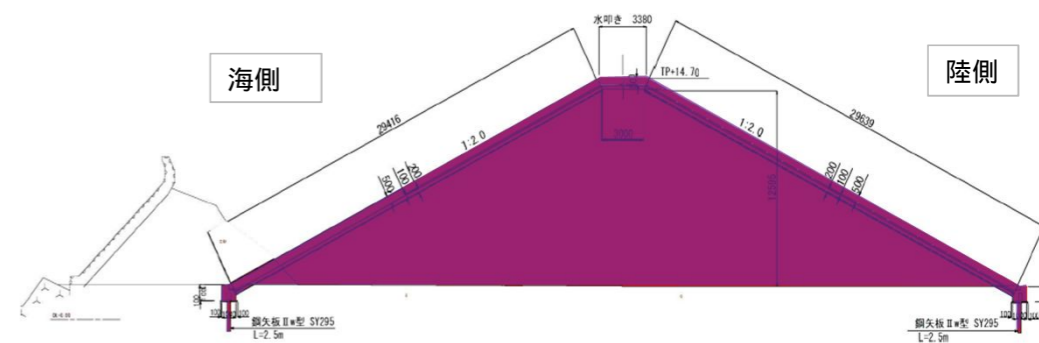
至宮古市街←



→至岩泉町

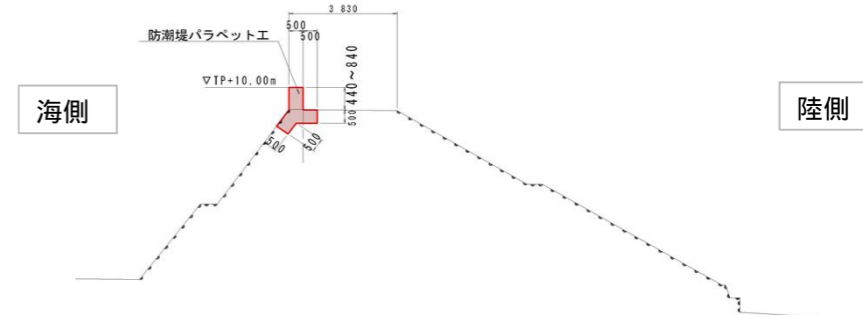
標準横断面 (参考)

第一線堤 (別事業で施行中)



標準横断面

第二線堤



災害査定

工事名 : 田老地区海岸災害復旧(23災628号)工事
 工事概要 : 復旧延長 L=1070.0m、防潮堤 L=1070.0m、陸閘2基 樋門2基

事業工程

1号陸閘閉塞工事 施工前

1号陸閘閉塞工事 施工完了

2号陸閘 (施工前)

2号陸閘拡幅工事 施工完了

